

若築建設株式会社

# DX推進基本計画

2025年11月01日

# 1. DX推進体制および推進計画

# DX推進体制および推進計画

## 経営ビジョン

### 長期ビジョン

「内外一致 同心協力」を企業理念に据え、品質と安全を核とした施工により、ESG経営を推進する

「品質・安全」を核とした施工をベースに3つの持続性を追求

Sustainability I  
市場での持続性



- 企業価値の向上
- 安定した株主還元

Sustainability II  
組織の持続性



- アフターコロナの事業継続力
- 社員の満足度向上

Sustainability III  
社会の持続性



- 地域への社会貢献
- 地球環境問題への対応

# 2030

すべての  
ステークホルダーの  
期待に応えられる  
企業

SUSTAINABLE  
DEVELOPMENT GOALS

# DX推進体制および推進計画

## 経営ビジョン

### DX推進および情報処理技術の活用に関するリスクと機会

#### リスク



- デジタル技術革新への対応の遅れにより、生産性や技術力の低下を招き、他社との競争に立ち遅れる
- 将来の担い手である若い技術者の確保が計画通りに進まない

#### 機会



- 革新的技術や社内に蓄積されたデータの有効活用により、生産性や技術力が他社に先んじて向上する
- コンプライアンスの強化、企業ガバナンスの高度化に寄与することができる

# DX推進体制および推進計画

## DX戦略

### DX推進体制の整備

各部門を横断する  
推進体制の構築

および

DX推進部会の設置

DX推進に関する  
投資計画の明確化

### デジタル技術の活用強化

#### 基幹システム（WAKACHIKU Business Information）の刷新

業務プロセス間および部門間でのデータ共有・蓄積を効率化し、業務の高度化や迅速化を進めるため基幹システム「WABI」を早期に刷新する

#### データドリブン経営の実現

過去およびリアルタイムの業務記録や施工管理記録などをクラウドも活用したデータレイクで管理し、目的に応じて必要な時に必要な社員が活用できる環境を構築することで、改善検討の迅速化や効率化を目指す

#### 電子契約やAI活用等による業務効率化

- 電子契約システム導入による契約書、請求書等の電子データ化
- AI活用システム等の導入による生産性向上

# DX推進体制および推進計画

## DX戦略

デジタル技術の活用強化

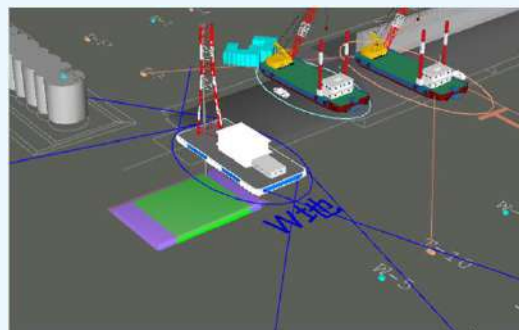
### 新技術の積極的な活用による生産性向上

#### ▶ ICTインフラ基盤

衛星通信を活用した通信環境の改善

#### ▶ BIM/CIM

- BIM/CIMの本格導入
- 2D図面から3DのBIMモデル作成ツールの開発



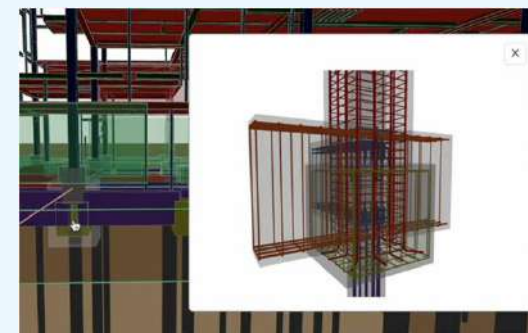
CIM活用事例



BIM活用事例



3次元構造モデルを用いた構造レビュー



接合部の配筋納まりの確認

# DX推進体制および推進計画

## DX戦略

デジタル技術の活用強化

### 新技術の積極的な活用による生産性向上

#### ▶ AI活用システム

- 施工に関連する計画書の作成支援システムの開発
- 工区近辺を航行する一般船舶をAIで監視するシステムの高度化

#### 一般航行船舶AI監視システム『MAIRS』の概要

自船周囲の一般航行船舶を、3種類の方法で確実に検出し、1つのモニターに表示する。



#### ①AIS情報

大型船舶は、自船の位置情報を発信する義務がある。



#### ②船舶レーダー



#### ③AIによる画像認識

自船のカメラで周囲を撮影し、人工知能(AI)で船舶を検出する。



#### AIで検出した船舶



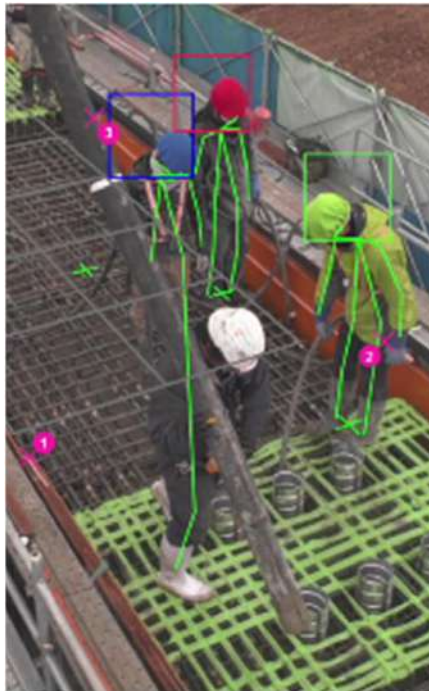
# DX推進体制および推進計画

## DX戦略 デジタル技術の活用強化

### 新技術の積極的な活用による生産性向上

#### ▶ AI活用システム

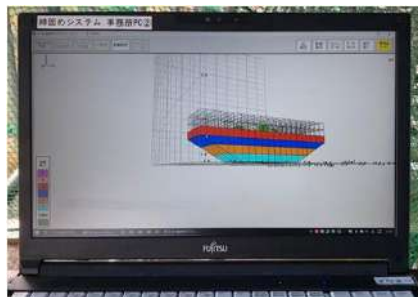
コンクリート締固め管理システムの高度化



作業者の骨格推定



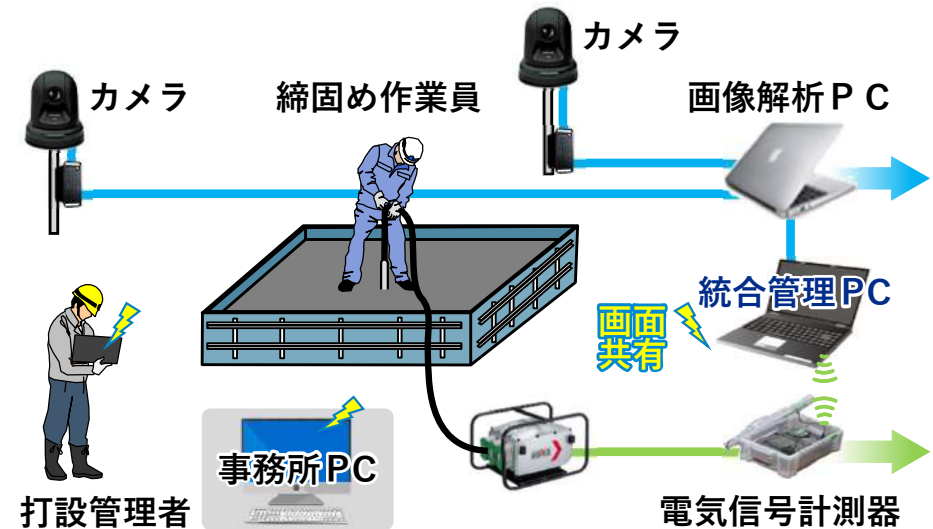
システム運用状況 (タブレット)



施工の進捗状況

#### コンクリートの打設管理として

- 人物骨格推定 AI を用いて、締固め位置と締固め時間を管理するシステム。
- コンクリートの出荷から打設完了までの時間を管理することもできる。





# DX推進体制および推進計画

## DX戦略

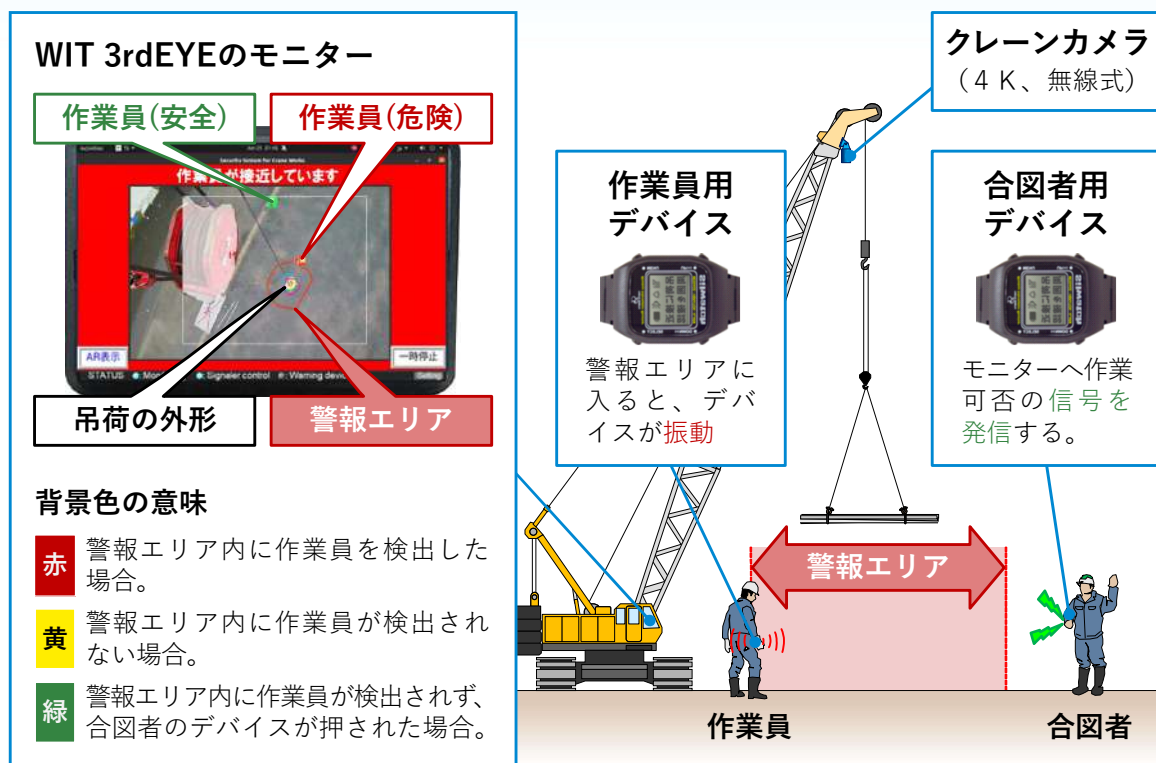
デジタル技術の活用強化

### 新技術の積極的な活用による生産性向上

#### ▶ 安全管理

- iPadで利用可能な安全AIシステムの開発
- 埋設管損傷防止対策システムの開発
- AIを活用したクレーン安全監視システムの高度化

#### クレーンAI監視システム『WIT 3rdEYE』の概要



# DX推進体制および推進計画

## DX推進人材の育成

1



各部門にDXを中心的に推進する人材を配置し、DX推進に関連する資格取得を進め、DX推進人材のスキル向上をはかる

2



建設DXやi-Constructionを積極的に推進するために、工事施工に携わる技術者を対象としてDX人材育成プログラムを導入し人材を育成する

3



全社員を対象にITスキルに関する講習等を実施し、全体のITスキル向上をはかる

# DX推進体制および推進計画

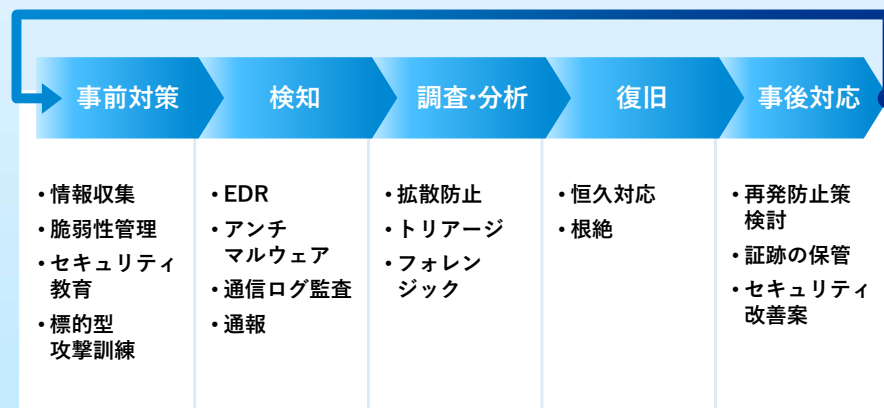
## 情報セキュリティの強化

1

外部機関による情報セキュリティ体制の評価を定期的実施し継続的改善を図る

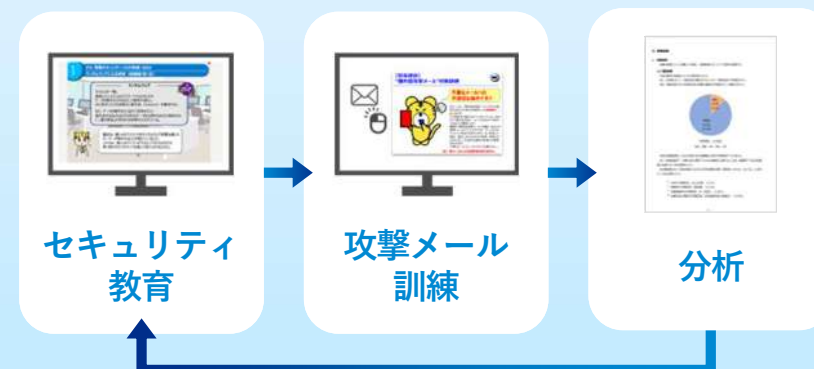
2

インシデント対応体制や手順を整備し、定期的に訓練する



3

情報セキュリティに関する社員教育を継続的に実施する

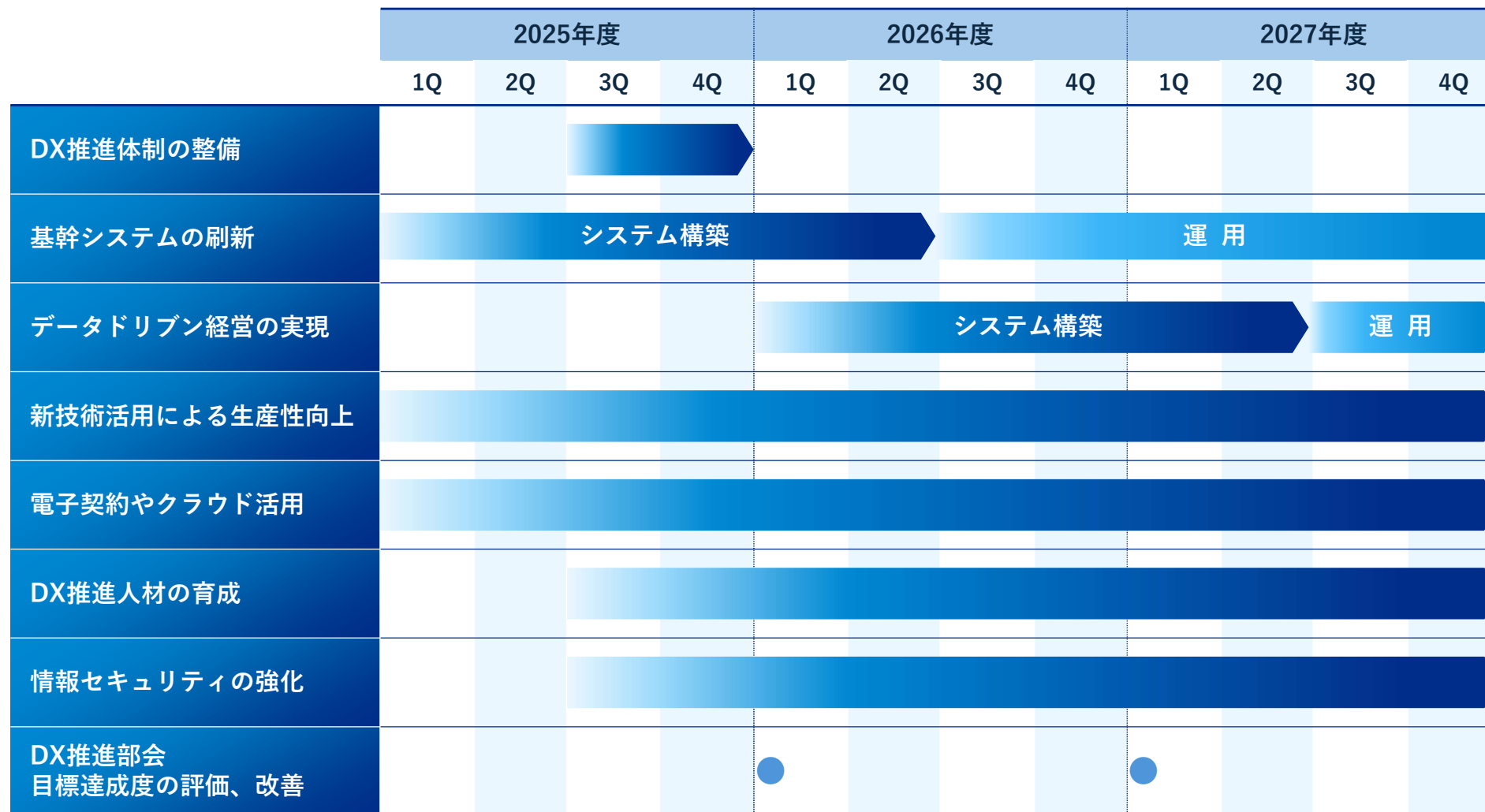


4

社内および関係会社の情報セキュリティ監査を実施し課題の把握と改善に努める

# DX推進体制および推進計画

## DX推進基本スケジュール



## 2. KPI設定および目標管理

# KPI設定および目標管理

## 中・長期的なKPIおよび目標の設定

それぞれの分野において具体的なKPIおよび達成目標を設定しDXを推進する。

### 1. 基幹システム刷新、データドリブン経営

- ①現在の基幹システムを再構築し、2026年度内に運用を開始する
- ②社内データをデータレイクで一元管理し社員が活用するシステムを2026年度に構築し、2027年度内に運用を開始する

### 2. 生産性向上

- ①下記ICT施工管理システム等の工事活用率を向上させる
  - ・点群測量や電子野帳の工事活用率
- ②AIを活用したシステムの工事活用率を向上させる
  - ・AIコンクリート締固めシステムの工事活用率
  - ・AIクレーン安全監視システムの工事活用率
- ③電子契約サービスを導入し2026年度内に運用開始する

### 3. DX推進人材の育成

- ①DX人材育成プログラムに基づく研修修了者数あるいは研修修了率を向上させる
- ②DXやITに関連した下記資格などの取得者数や講習受講率を向上させる
  - ・DX検定、基本情報技術者、ITパスポートなど

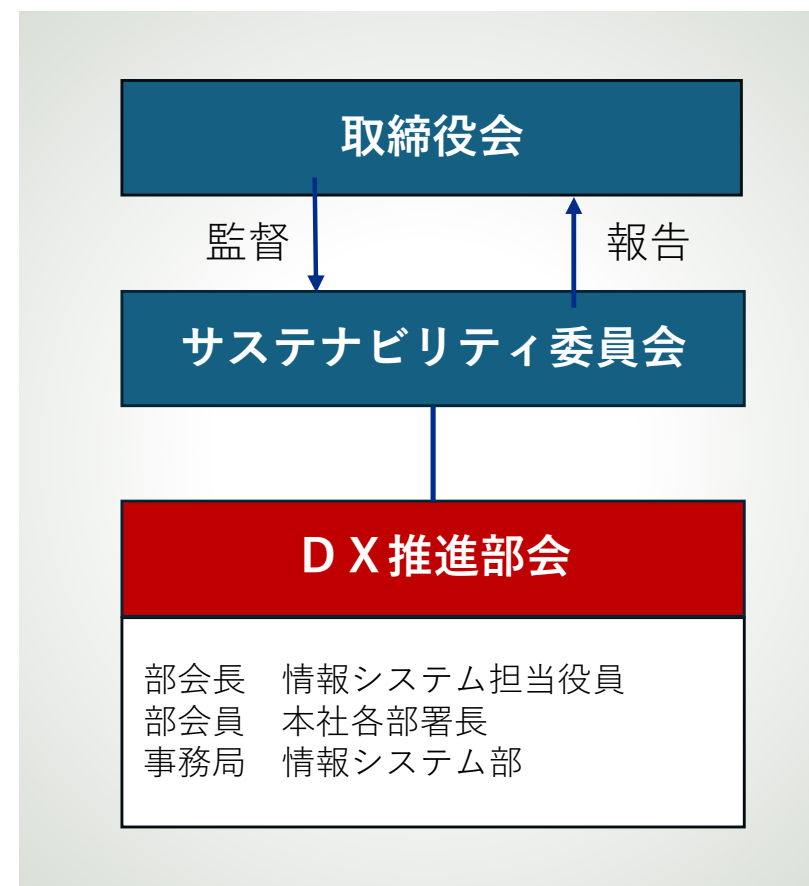
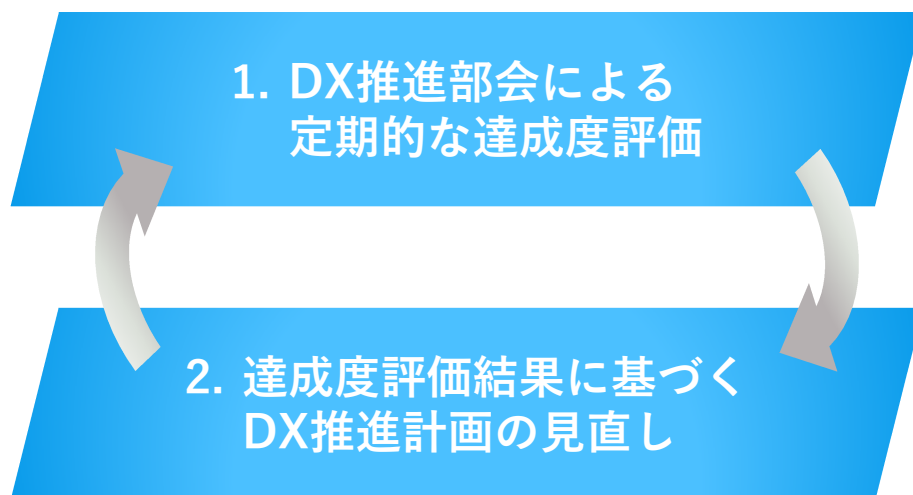
### 4. 情報セキュリティ対策

- ①情報セキュリティ教育受講時のテスト正解率を向上させる
- ②情報システムに関するインシデント発生数や疑念事項報告数を低減させる

# KPI設定および目標管理

## 達成状況を評価し改善するための体制

定期的に開催するDX推進部会において、DX推進に関する目標達成の評価や評価結果に基づく計画の見直しを行う。



# 3. 情報発信





# 情報発信

DX推進については、  
こちらの媒体を通じ  
ステークホルダーに対して  
定期的に情報を発信します



社外向けホームページ  
<https://www.wakachiku.co.jp/>



コーポレートレポート



イントラネット

問合せ先

## 若築建設株式会社

東京本社 情報システム部

TEL:03-3492-0280

mail: [DX\\_promo@wakachiku.co.jp](mailto:DX_promo@wakachiku.co.jp)

〒153-0064 東京都目黒区下目黒2-23-18